



No.58
2022.12.20
発行：特定非営利活動法人
所沢市学童クラブの会
広報部
所沢市くすのき台2-20-6
Tel：04-2994-6753

やってみたい！を形に



若松学童では長年使っていた看板を作り変えたいと思っていた、学童の顔である看板づくりを高学年でできないかと思いつき指導員から提案してみました。「いいね」と乗ってくれた子どもたち。看板づくりを四年生以上で手掛けることにしました。

高学年は出席もまばらでなかなか全員がそろう日がありません。全員が強制的にやるのではなくやりたい子たちが、やりたいタイミングで関わる形にしました。指導員が切った背板や文字の板にやすり掛けをしたりスプレーなどで色づけをしてくれました。はじめは面倒くさがっていた男子にも看板づくりをする日には声かけるようになりました。



「やんなーい」と言っていた子どもたちも近くで作業を見ていたり、遊びの合間に作業に加わったりするようになりました。

子どもたちのアイデアで筆にペンキを付けて振りながら星空にしたい！というものがありました。四年生の女の子が筆を振ってみるとパラパラとインクが散らばりました。それを見て「それいいね！」と声が上がりました。テンションが上がりました。直接板に筆が当たってしまつときもありましたが、「これはこれでいいじゃん！」とそのことを責めることなく「いい感じ」とほめていく姿は素晴らしいな。と思いました。

華やかな看板ができました

若松学童

看板づくりが始まると下の学年の子も寄ってきます。「いいな」「来年はうちらが看板つくるね」などみんなで作りに上げるものをやりたいという気持ちが出ていたのもうれしかったです。これから若松学童の新しい顔として華やかな看板を飾ります！

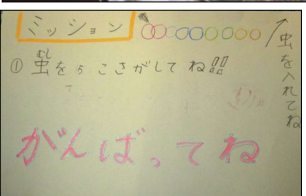
おばけやしきからハロウィンへ

ぐろにゃんクラブ

夏休みのある日、四年生のHちゃんと二年生のAちゃんとYちゃんが「お化け屋敷がやりたい！」と言ってきました。「よしやろう！」と、三畳ほどのスペースでどんなお化け屋敷ができるか、いっしょに考えました。

家でもアイデアを考えたり、小物を準備したりして、いよいよ当日。他の四年生も手伝い、お化け屋敷が完成！

しかし、いざみんなに説明する時になると急に緊張し始めて、「無



理、どうしよう。」と説明の譲り合いに。結果、「みんなでいっしょに言おう」と、五人で前に立って説明をしてくれました。

お化け屋敷の前には、順番を待つ子の列が。みんな期待でいっぱいです。出てきた子は、「面白かった」「全然へいきだった」「こわかったけど、もう一回やりたい！」と大盛況。企画した子どもも客さんも楽しめたお化け屋敷でした。



そして更に、十月二十八日に行われたハロウィンでも四年生の子たちが大活躍。公園に星の形のボールを隠して、星を二個見つけた班からおやつをもらえするというお楽しみを企画してくれました。

今回も「声小さいけどいい？」と言いつつ、がんばって説明していました。小さい声でもみんなに届いたのは、同じなと思っています。

四年生の男の子が見かねて、「おいみんな、これからしゃべっちゃいけないゲームやるぞースタートー」と言いつつ、助け舟を出してくれたから企画は成功で、みんなで楽しみました。

自分たちの力でやりたいことを形にしてみる楽しさを学童でたくさん経験してほしいなと思っています。

市民フエスティバル特集

三年ぶりに市民フェスティバルが開催されました。学童クラブの会としては、ダンボール迷路とベーゴマ教室・ベーゴマ大会を行いました。お天気にも恵まれ、青空のもとたくさんの子どもたちが集まりました。楽しんだり、悔しがったり、真剣な表情を見せてくれたり。「待ってました」と言わんばかりの子どもたちの笑顔に、本当に開催できてよかったと感じられる二日間でした。



新人指導員紹介

濱山 亜結美さん
若松学童クラブ

①子どものころ好きだった遊び

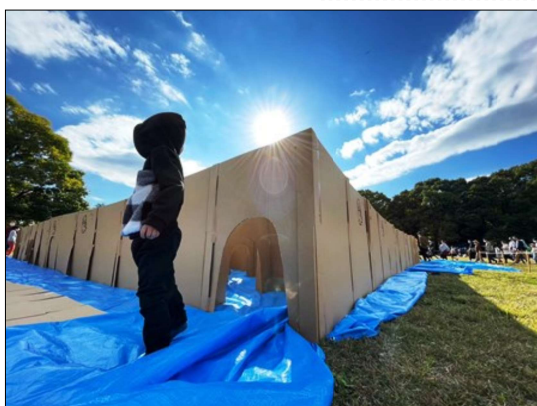
ダブルダッチ

②意気込み

自分が小学生の時に世話になった学童の指導員さんみたいになれるように先輩方からたくさんのことを学んで覚えたいと思います。

③特技、好きなこと

特技←テニス、卓球
好きなこと←お昼寝



学童クラブの会のHPはこちら！



ダンボール迷路

今回は、ダンボールの会社である株式会社出羽紙器製作所さんとコラボさせていただき、より組み立てやすい形のダンボールに改良され、学童クラブの会のキャラクター「がくどん」も印刷してもらったことができました。

二日間を通してのべ三千五百十二名の子もたちが迷路を楽しんでくれました。

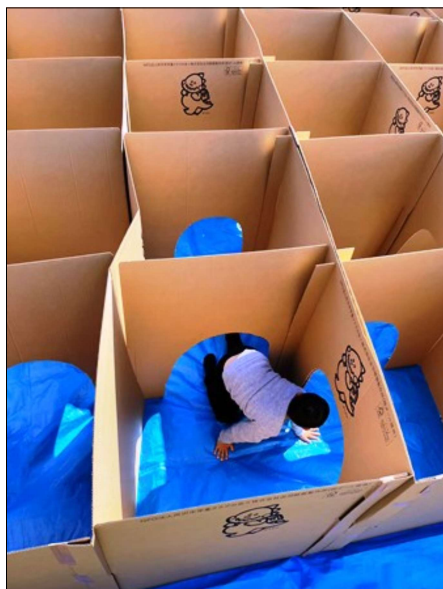
「おにぎりがくどんをさがしてみてねー」や「ハロウィンがくどんをさがしてみてねー」もあり、何度も何度も迷路に並んで、挑戦している子もいました。

ました。

迷路の裏側には大きながくどんの写真スポットも登場。迷路をゴールできた子どもたちが記念写真を撮ってもらっていました。

た。

幼児さん用の迷路も大盛況で、なかなか出てこない弟や妹をお兄ちゃんやお姉ちゃんがお迎えに行って、いっしょに迷路から出てくるなんてこともありました。



ベーゴマ教室・ベーゴマ大会



ベーゴマ教室



ベーゴマ教室



ベーゴマ教室

一日目のベーゴマ教室は、思いのほか大盛況で、初めて挑戦する子、二日目のベーゴマ大会に向けて練習をしに来た子、子どもたちにつられて挑戦していた大人たちと、子どもから大人まで世代を超えて楽しんでいました。ベーゴマ教室を楽しみにしていたという親子の参加もありました。初めてベーゴマにひもを巻くというところから床（とこ）の上で回せるようになり、最後は親子対決もできるようになりました。昔を懐かしみながら



ベーゴマ大会



ベーゴマ大会決勝戦

がら子どもたちの輪に入りベーゴマを回していた年配の方もいました。
二日目の市長杯ベーゴマ大会は、「あかさたな子どもルネサンス」さんとの共催で行われました。参加人数が少なかつたらどうしようという心配をよそに、百四十二名の子どもの参加がありました。
市長杯ということで、開会式では市長からのご挨拶もいただきました。
試合がはじまると一気に緊張

張感が高まり、どの床も白熱したたたかいが繰り広げられていました。

決勝トーナメントに進んだ九名には、入賞品としてオリジナルベーゴマが贈呈されました。

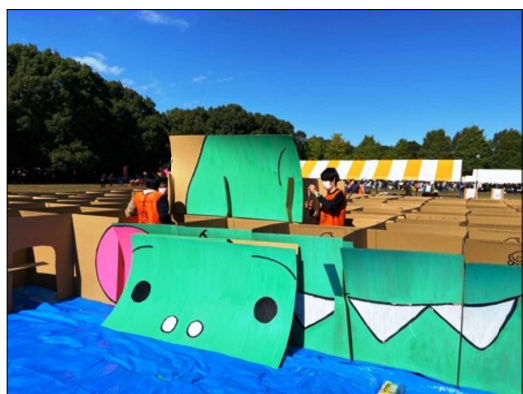
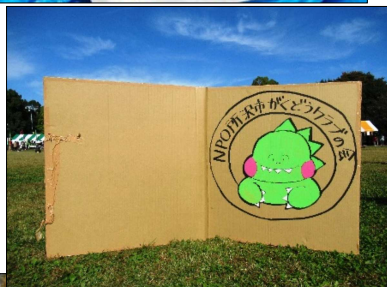
決勝戦は決勝トーナメントを勝ち進んだ三名で行われ、息をのむほどの接戦を勝ち抜き、見事優勝したのは、蟹谷太晴君（二年）でした。準優勝は、彼ノ矢峻君（三年）、三位は大場翔介くん（中学一



ベーゴマ大会開会式

年）でした。
負けてしまい涙を流していた子もいましたが、それだけ大会に向けて練習を積み、がんばってきたのだと思います。負けたことも勝ったことも練習の過程も子どもたちの経験となり、次の何かにつながっていくといいと思います。

ダンボール迷路作業の様子



実行委員長より



今年、三年振りとなった市民フェスティバル。コロナの影響で色々と開催方法も変わるなどそもそも参加出来るのか?という所からのスタートでした。規模の縮小、有料にするなどの意見も出ましたが、学童クラブの会として長く続けてきたもので、「子どもたちに楽しんでもらいたい!」と、無料で例年通りに行うことが決まりました。

職員だけでやりきれなのかという心配はありましたが、保護者、OB、OG、補助指導員さんがボランティアで来て下さり、



実行委員長 渡辺昌生

お手伝いをして下さった皆様にはとても感謝しています。大変なイベントではありますが引き続き来年以降も実行委員として関わっていききたいと思っています。

ダンボール迷路の作成の方法を一新するなどの工夫をして何とか乗り切ることが出来ました。

今回、実行委員長を務めたこともそうですが、自分のクラブの子がベーゴマ大会で優勝したこと、以前配属されていたクラブのOGが会いに来てくれたことなどとても印象に残る年になりました。

お手伝いをして下さった皆様にはとても感謝しています。

大変なイベントではありますが引き続き来年以降も実行委員として関わっていききたいと思っています。



片山 昭子 指導員

宮前学童クラブ

クラブでは「あきちゃん」「あき」と呼ばれています。

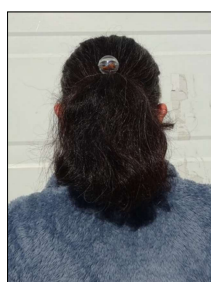
宮前学童の子どもたちは元気いっぱいな子たちです。庭では穴を掘る子もいれば、一生懸命泥団子を磨いている子がいたり、泥遊び後のシャワーを楽しみにしている子も。一人一人が自分の好きな遊びを楽しんでいます。「コロナ禍で、行事など以前と同じようにできないこともあります。が、子どもたちとは今できることを一緒に考えながら日々の生活を作っています。特に、四年生の子たちは積極的で、子ども会議で、「みんなで楽しくできる行事をしたいのだけど、なにがいいかな？」と相談すると、それぞれの意見を出しあい真剣に考えてくれます。やる気があります。話し合いの記録係から当日の司会やあいさつなど取り合いになるくらいなので、いつも元気をもらっています。

そんな元気いっぱいの子どもたちですが、時にはお互いの思いを上手く伝えることができず、喧嘩になってしまうことがあります。その時はまずは子どもたちの思いを聞き出し、「言葉」にすることを大切にしています。そのうえでどうしたらよかったのか？子ども自身が考え、自分の気持ちを言葉にできるように心がけています。

買い物をしているときに、まだ出勤したときに校庭で遊んでいる子が私を見つけて「あきちゃん」と声をかけてくれると幸せな仕事だなと思います。

同僚指導員からは、「片山指導員は、みんなのお母さんの存在で、明るくとても前向きな人です。夏休みの水遊び、子どもと一緒にびしょぬれになって楽しんでいました！器用でアイディア豊富な片山指導員は結束バンドを自由自在使いこなし、子どもたちが少しでも気持ちよく過ごせるよう環境づくりに力をいれてくれています。」

次はこの人



子どもたちにはこの先、自分の「好き」を一つでも多く見つけてほしいです。食べ物でも「好き」が多いと食事が楽しくなります。スポーツでも、本でも、お出かけでも、ゲームでも何でも「好き」が多いと楽しいが増えるので、子どもたちが「好き」を一つでも多く見つけられるように毎日一緒に楽しんでいきます。

三年ぶりの市民フェスティバル。企画を形にする人たち、運営する人たち、楽しみにしてくれていた子どもたち、たくさんの方の思いがあふれる二日間でした。本当に開催できてよかったです。

今号の二つの特集「やってみたい！」を形に「市民フェスティバル」では、みんなでいっしょにつくり上げた過程もお伝えしています。伝えられなくなってしまふ奮闘がそこにはあるのです。

一人では成し遂げられないようなことを、人と人がつながり、力を合わせることで想像以上のものができることがあります。できたときの喜びや達成感、さらに出来上がったものを誰かに喜んでもらえるうれしさなどを味わえることは、大人も子ども関係なく、人生を豊かにしてくれるのではないかと思っています。そのような機会にたくさんめぐり会える私は幸せ者だなあと 생각합니다。

お読みいただき、ありがとうございました。



編集後記

三年ぶりの市民フェスティバル。企画を形にする人たち、運営する人たち、楽しみにしてくれていた子どもたち、たくさんの方の思いがあふれる二日間でした。本当に開催できてよかったです。

今号の二つの特集「やってみたい！」を形に「市民フェスティバル」では、みんなでいっしょにつくり上げた過程もお伝えしています。伝えられなくなってしまふ奮闘がそこにはあるのです。

一人では成し遂げられないようなことを、人と人がつながり、力を合わせることで想像以上のものができることがあります。できたときの喜びや達成感、さらに出来上がったものを誰かに喜んでもらえるうれしさなどを味わえることは、大人も子ども関係なく、人生を豊かにしてくれるのではないかと思っています。そのような機会にたくさんめぐり会える私は幸せ者だなあと 생각합니다。

お読みいただき、ありがとうございました。